

通院化学療法患者へのNSTの取り組みについて

千葉県がんセンター 栄養サポートチーム (NST) 管理栄養士 河津絢子

近年、化学療法が入院から外来治療へシフトしたことにより、化学療法に起因する副作用で自宅での食事に苦勞している患者が多いことがわかった。今回、外来化学療法患者を対象に食事アンケートを施行し、結果を踏まえた患者さん勉強会の開催と、外来通院化学療法室での栄養相談を開始したので報告する。

食事アンケート

【方法と結果】外来化学療法患者 46 名（男性 23 名, 女性 23 名; 平均 62.6 歳）を対象に聞き取り方式で、アンケートを施行。その結果、味覚の変化 21 名 (52.3%)、便秘 20 名 (45.5%)、体重減少 19 名 (44.2%)、吐気 10 名 (23.3%)、嗅覚の変化 10 名 (22.7%)、食事量の減少 10 名 (24.4%) であった。

患者さん勉強会

【内容と参加者の意見】NST 看護師による講義、栄養士・看護師による個別相談、見本献立の掲示、栄養補助食品の試食を行った。参加人数は 17 名（患者 12 名, 家族 5 名; 平均 61.3 歳）であった。おおむね好評で今後の継続を希望する意見が多かった。

栄養相談

【現況】平成 20 年 12 月～平成 21 年 3 月までに 96 件の栄養相談を実施。内訳は、味覚障害 26 件、食欲不振 24 件、血糖コントロール 11 件、体重減少 8 件、その他 27 件であった。

結語；化学療法患者は、同じ治療を行う患者がどのように副作用に対処しているのか、どうやったら副作用を乗り越えられるのかなどの情報とアドバイスを欲していることがわかった。外来化学療法患者においても栄養サポートの重要性が示され、その体制作りが必要である。